

Revolution
JAPAN NEW WAVE

日本の歩むべき道

FUTURE JAPAN



www.satoyasuki.jp

NEW JAPAN ★ **2050**

2050年に向けて…日本の歩むべき道!!

世界の潮流と日本のおかれた現状を冷静に認識し、長期的にニッポン丸の進むべき先を定めて舵を切る—それが政治、特に『国政』の本来の役割であると確信いたします。政治のあり方で、長期的な国のあり方が決まります。ニッポン丸の進むべき針路はどこなのか。私の考える目指すべき日本の未来のあり方について2回に分けてお届けします。今回は、①安心して暮らせる社会と、②多様な価値観を生かす、の2つです。次号では③国の力の底上げ④世界の中の日本⑤政治は国民とともに、の3つをテーマにお届けいたします。

①安心して暮らせる社会

近年日本でもお金持ちがますますお金持ちになる富の集中が加速しています。いわゆる格差社会ですが、格差は格差を生み続けます。やがては社会の分断が国を瓦解させ、社会不安が蔓延します。

まず日本をこの格差の罠にこれ以上陥らせないことは政治の未来への責任です。最低生活保障の制度をつくるなどして特に社会的に弱い人の立場や経済力の底上げをはかり、格差の連鎖に歯止めをかけなくてはなりません。格差拡大が大きな流れの中で、10年単位の粘り強い取組みを要しますが、分厚い中間層の再生を目指すべきです。国を挙げて真剣な取組みを今すぐ開始しないと手遅れになります。

残念ながら何十年もの間政治は厳しい現実から目を背けてきました。変化する時代の要請にこたえる新たな制度を構築し社会に浸透させることに無策でした。

例えば年金の制度。何もしなければ、遅かれ早かれ立ちゆかなくなることは30年前から分かっていました。いざ危機に直面しても、政府はなお少子高齢化の実態にそぐわない「若者がシニアを支える」制度を維持し、その制度を維持するために、毎月の支給額を減らす仕組み(マクロスライド)で対応しています。このままではいずれ毎月の支給額は大きく減ってしまいます。制度の維持に躍起になって本質的な改革ができておらず、本末転倒といえます。

シニアが安心して生活する為の額を支給し続けることを第一に、可能な現実的な制度を徹底的に考えて導入すべきでしょう。今からでも遅過ぎることはないで、「(ベーシックインカムや税金の投入などの方法で)国全体でシニアを支える」新たな年金制度の導入を検討すべきです。

Revolution
JAPAN NEW WAVE



さとう★やすき

佐藤

SATO YASUKI

■プロフィール■

幼少時を米国で過ごし、神戸で育つ。六甲学院中・高、東大法学部・同大学院を経て米国ハーバード大ケネディー政治大学院卒業。国連でのインターン、欧米の投資銀行を経て、住友商事で世界のインフラ開発投資に従事し現在に至る。

改革
保守

②多様な価値観を生かす

次に日本はこれまでになかったような多様な価値観や生き方ができる社会を目指すべきです。時代時代において、より多くの人が生活し易い社会にしていきたいものです。

その第一歩として日本がもっと女性の社会進出が可能な国にしないといけない。女性の視点や気持ちを代弁できる人が政治や経営の幹部など影響力のあるポジションにつくことで人口のほぼ半分を占める女性が生き易い社会を実現できるのではないのでしょうか。女性しか気が付かない点もあり、これまで男性社会がゆえに見過ごされていることは、多いのではと感じます。

女性の視点にこそ長年日本が解決できていない課題を解決する鍵があるかもしれません。例えば少子化の解決には女性が子供を安心して産み育てられる環境を整えることが欠かせません。女性の力を生かすべく、政策づくりから制度導入に至るまでを女性が真ん中で手掛けるようにできないのでしょうか。

ますます進む高齢化社会にあってもお年寄りも多様な生き方をできるように制度を設計すべきでしょう。多様な高齢者が、十把一絡げに扱われると、社会にとって大きな損失です。これまでのような画一的な定年制ではなく、元気な高齢者をもう少し重用できる社会を目指すべきだと思います。